

日本ビジネス実務学会 中国四国ブロック会報 第32号

*The Bulletin of Japan Society of Applied Business Studies,
the Chugoku-Shikoku Bloc, No. 32*

発行日: 2020年3月31日
編集責任者: 佃 昌道(高松大学)
事務局: 〒761-0194 香川県高松市春日町960番地
URL: <http://jsabs.hs.plala.or.jp/>

ブロックリーダーより 佃 昌道 (高松大学)

2018年度の活動報告になりますが、第37回全国大会が中国・四国ブロック担当により、徳島文理大学徳島キャンパスを会場に2018年6月9日(土)、10日(日)の日程で開催されました。基調講演、総会、JAUCB助成研究報告、シンポジウム、研究発表16件とポスター発表9件がありました。

第35回ブロック研究会は、2018年8月25日(土)、26日(日)の2日間にわたり、高松大学・高松短期大学において、14名の会員等と学生プレゼンテーションの発表者8名を加えた22名の参加を得て開催されました。

ブロック研究会では、定例総会、第13回学生プレゼンテーション大会、会員による研究発表4件、ワークショップ1件という内容で実施されました。

13回目を迎えた学生プレゼンテーション大会は、8名の学生が参加。熱心なご指導もあり、年々プレゼンテーションの内容・方法ともに質が高くなってきており、すばらしい発表でした。自らの課題や学習内容の成果など発表の内容も多彩に富み、今後の展開が期待できる内容となったように思いました。

研究発表会では、活発な質疑応答が行われ、研鑽を積むに相応しい場となりました。大学・短期大学において、教育の質保証が求められている時代です。教育現場で直面する課題に向き合い、総合的な教育力を発揮するためにも、研究や授業開発・実践の成果を研究会で発表していただくことが肝要となってきています。

また、恒例の懇親会は、会場を移して開催され、和やかな雰囲気の中での活発な議論が続き、有意義なひと時を過ごしました。

ご多用にもかかわらず、数多くの会員のご参加ならびに貴重なご発表をいただきましたこと、運営等にご尽力くださいました会員の方々、とりわけ開催校会員の方々に深く感謝申し上げます。

次期研究会を広島地区で開催することが、ブロック研究会総会において承認されました。第36回ブロック研究会は、2019年8月24日(土)、25日(日)に広島女学院大学で開催する予定です。数多くの研究発表、共同研究助成発表(募集中)とともに、多数のご参加を心よりお願い申し上げます。



日本ビジネス実務学会
 第35回 中国四国ブロック研究会 プログラム
 (2018年8月25日・8月26日 於：高松大学・高松短期大学)

【8月25日(土)】	
12:30~	受付
13:00~	開会の挨拶 当番校挨拶 事務連絡 ブロックリーダー 佃 昌道 関 由佳利
13:10~	総会
	第13回学生プレゼンテーション大会 (発表:5分)
14:00~	①音楽学科でのチャレンジ 徳島文理大学 音楽学科声楽コース2年 川北菜未 ②外国語を学んで 徳島文理大学短期大学部 言語コミュニケーション学科2年 新居綺華、篠原藍 ③真備町の僕が、平成30年7月豪雨で経験したこと 中国学園大学 国際教養学部3年 武政輝之 ④祖父母の住む飛島で、私たちができる活性化! 中国学園大学 国際教養学部3年 山下真弥 ⑤笑顔のWAが地域を救う 高松短期大学 秘書科2年 森千尋 ⑥マルシェ実習を通して学んだこと 高松短期大学 秘書科2年 香川桃子、川井梨子
14:50~	学生プレゼンテーション大会の表彰・総括
15:00~	休憩 (30分)
	研究発表 (発表20分・質疑応答10分)
15:30~	①異業種連携事業で派生した課題と大学教育での効果 - 真備町の介護施設での事例を通して - 中国学園大学 佐々木公之*, 撰南大学 大田住吉
16:00~	②阿波踊り学生通訳ボランティアと徳島を紹介する英語表現 徳島文理大学短期大学部 堀口誠信
16:30~	事務連絡 関 由佳利
17:30~	懇親会 (於: 魚夏)

【8月26日(日)】	
9:10~	受付
	研究発表 (発表20分・質疑応答10分)
9:30~	③地域課題を題材とした地域教育の方向性~地域連携による観光活性化の取り組み~ 四国大学短期大学部 加渡いづみ
10:00~	④商業高校におけるアクティブラーニング手法導入後のキャリア教育 岡山県立津山商業高等学校 名和晋也
10:30~	休憩 (15分)
10:45~	ワークショップ 高松大学 佃昌道
12:00~	閉会の挨拶 次期当番校

研究発表概要一覧 発表者氏名、所属、タイトル、発表概要の順

1. 佐々木公之(中国学園大学), 大田住吉(摂南大学) 異業種連携事業で派生した課題と大学教育での効果



1. 概要

近年、農商工連携、医農福連携など、様々な事例が紹介されているが、学生をその現場に参画させ、その事業ノウハウやビジネス戦略を肌で体感させるケースは極めて少ない。

本研究は、総合病院、介護老人保健施設、農業ビジネス法人、ホームセンター、中国学園大学（以下、本学）の5者が一体となり展開された介護老人施設ライフタウンまび（以下、L施設）での農場づくり「まびファーム事業」（以下、M事業）のPBLを通じ、各々の企業・団体から派生した課題と、大学教育での効果について考察するものである。

平成30年7月真備町を襲った豪雨では、L施設も多大なる被害を受けた。この被災後のM事業の将来像と、管理業務を担当した学生の教育効果、成長についても考察する。

2. まびファーム事業とは

「みんなでつくる」を合言葉に、病院、ホームセンター、大学などが連携し、真備町発 CCRC (Continuing Care Retirement Community : 継続的なケア付きの高齢者たちの共同体)構築を目指して、平成28年6月から研究活動を行っているセラピーを目的とした農園である。開園後、地元企業からの馬や山羊の寄付により、農業だけでなく、動物セラピーを取り入れられ、真備町の憩いの場となっていた。

3. 異業種連携事業を通じての各事業体のメリット

L施設では、将来の増床に向け、他施設との差別化を図るべく、特長的な入所者サービス事業を求めている。異業種が連携することでM事業という独創的かつ優位性ある新事業分野への進出を実現できた。M事業に参画した企業も、農機具等の販売、PB商品（培養土・堆肥）など収益的なメリットがあった。

4. 異業種連携事業で派生した課題

2年間の中で、M事業で様々な課題も派生した。農業ビジネス法人は、徐々に関わりは薄くなった。ホームセンターも、担当役員の退職など、ビジネスライクな関わりが多くなった。総合病院は、人事異動などで、スタート当初のスタッフ担当を外れ、各連携団体との合同会議などが減った。大学側も、本プロジェクトに対する熱意が徐々に失われていった。

5. M事業を通じての大学教育での効果

本学では、農業・医療福祉を学ぶ機会を提供できていない。その中、M事業を通じて、圃場整備、農作物収穫などの農業など専門外の実務教育が提供できた。また、大学授業で学んだ企画・プレゼンテーションなどを活かす機会となった。

特に、本プロジェクトを担当した学生Tは、両親、友人、教員、本人へのアンケートにより、「主体性」、「規律性」、「状況把握力」「規律性」が大きく成長したとしている。生平成30年7月真備町を襲った豪雨の中、学生Tは、自身の危険を顧みず、M事業で飼われていた動物や、L施設の利用者の救出に貢献した。M事業を通じて、学生たちが地域、産業界と関わり実際の課題を解決行なうなかで、社会人基礎力の成長に繋がったと考えられる。

2. 堀口 誠信(徳島文理大学短期大学部) 阿波踊り学生通訳ボランティアと徳島を紹介する英語表現



徳島文理大学主催の阿波踊り通訳ボランティア・アナウンスボランティアに、私は毎年引率しているが、そこでは英語教育最終段階での「通訳として現場の仕事に貢献できる、完成度の高い大学生」が使われる。本学数千人の中から厳選された数名であることを考えるとその数は決して多くはない。そこを英語教育の「出口」とするならば、その「入口」は英語学習が始まる時期すなわち昔の中学1年、今の小学3年である。しかし、今年8月に免許更新講習「小学校英語教育 SOS 支援！」を開催したとき、認定こども園からの参加

者もおり、「入口」は今や3歳児あるいは0歳児というところまできていることがわかる。

ところで、大学レベルとしての「徳島を紹介する英会話」で特に必要となる部分は、「精霊おどり」(a dance for the spirits of the deceased known as “Shoryo Odori”)や「蜂須賀家正」(the Hachisuka clan took over Tokushima Prefecture)などで、あとは「よろしく」などの日本語表現をいかに英語に変換するかといった、一般的な英語訳の作業となる。

これに接続している高校レベルでの英語教育の現場では、今年私が行ったアンケート調査に、アクティブ・ラーニングをいかに英語の授業で取り入れるかに苦心している様子が現れていた。それをまとめて6月の第37回全国大会では、本ビジネス実務学会の短大教員の大多数を占めている英語教員が、高校英語教員のアクティブ・ラーニング支援に何か役割を果たせないかを呼びかけたが、反応は大きくなかった。

さきに述べた「小学校英語教育SOS支援!」では、大多数の参加者が「楽しいゲーム・活動・レクリエーション」の伝授を要望していた。これらは英語の内容そのものというよりは「英語の周辺要素」であり、中学校で本格的に英単語・英熟語・英文法が出てくると、英語嫌いを作ってしまう要因にも成りうるものなのだが、彼らが「楽しさ」を無条件に是認する傾向は強く、こちらがその危険性を指摘することはタブーですらある。

また、今回の免許更新講習「小学校英語教育SOS支援!」では認定こども園からの参加者が数名おられた。こども園の側に「教えるノウハウ」がなくても、親の側から「教えて欲しい要望」があり、0歳児からの英語活動がすでにビジネスとして成立してしまっているということらしい。そして、主催者側であるこども園側は「語学としての英語」や「英語教育」に関してはかなり無知である場合が多く、また、それらのこども園に雇われているネイティブスピーカーのALTも「給料は出るので」現状にニガ笑いしている状態である。以上のことを踏まえ「認定こども園」に対して、ビジネス実務学会の英語教員が果たせる役割があるのではないかと考察する。

3. 加渡 いづみ(四国大学短期大学部)

地域課題を題材とした地域教育の方向性 ～地域連携による観光活性化の取り組み～

1 はじめに

ビジネス・コミュニケーション科の地域ビジネスコースでは、「さあ、教室を飛び出そう!」を合言葉として、学生が地域社会とのつながりを実感できるフィールドワークの実践に積極的に取り組んでいる。特に、地域教育の柱となる「地域ビジネス研究」「地域ブランド研究」「地域観光文化研究」の3科目では、教室の中で得る知識や情報に加えて、県内外における多彩なフィールドワークの展開により、多様な世代や文化と交流する機会を通じて、徳島の魅力や特性についての学びを深めてきた。本発表は、大学における地域教育において、地域と連携し地域課題の解決を目指すための授業運営の課題点や、従来型のPBL学習からさらに主体性を持たせた発展的な地域教育のプロセスについて考察を加えることを目的としている。

2 地域教育とアクティブラーニング

地域教育を題材とアクティブラーニングの実践では、学生独自の視点と自由な発想で様々なアイデアを生み出し、主体的な協働学習を進めることを目標としている。学生は地域の現状と地域が抱える課題と積極的に向かい合い、地域活性化のために自分たちができることを模索し、徳島県への愛着と誇りを強く感じながら課題解決を目指した。

平成29年度は、「地域ビジネス研究」を履修した1年生が、クルーズ客船で徳島に寄港した外国人観光客に対して、徳島や日本文化発信と徳島に対する観光意識調査を行い、「地域ブランド研究」「地域観光文化研究」を履修した2年生は、県南部の美波町と連携した特産品詰め合わせセット考案事業『うみなみプロジェクト』に取り組んだ。いずれも地域貢献を目指す学生が、地元自治体や事業者との連携事業に参加したアクティブラーニングによる協働学習である。

地域教育を題材とアクティブラーニングの実践では、学生独自の視点と自由な発想を尊重した協働学習へと導くことが重要である。と同時に、今後の地域教育では、課題解決をゴールとする従来型のPBL学習から一歩進み、課題解決のプロセスを体験することで培ったスキルを応用できる力を養うことが求めら



れる。

3 地域課題を題材とした地域教育の方向性

大学は、地域創生の拠点であり、地域における知の創造拠点として地域人材の育成と輩出を大きな使命としている。「地域を知り、地域に学ぶ」地域教育プログラムは、将来の地域社会を支え貢献できる人材を育てることを目指すものである。それはまさに、社会の中で「生きぬく力」「自立する力」「実践する力」の基礎を築くことにつながっている。

その意味において、これからの地域教育は、地域課題を題材にしながらもこれまで以上にコミュニケーションスキルと協働姿勢が求められるプログラムを実践することが求められる。また、教員に求められる資質として、学生の主体性を引き出すファシリテーションスキルに加え、事業の継続性と予算の確保のための交渉力も不可欠となる。

4. 名和 晋也(岡山県立津山商業高等学校)

商業高校におけるアクティブ・ラーニング手法導入後のキャリア教育



新学習指導要領が告示され、高等学校では2022年より学年進行で全面実施される。現在、各校や教育委員会等で「主体的・体験的で深い学び」の具体的学習活動の研修が行われている。高等学校への進学率は通信制を含めると98.5%（文部科学省 学校基本調査2015）であり、生徒の能力・適性、興味・関心、進路等の多様化に対応した特色ある学校づくりが求められている。

また高等学校教育改革の一環として「学力の3要素」の確実な育成が求められている。それは、「その身につけるべき力として特に重視すべきは、①十分な知識・技能 ②それらを基盤にして答えが一つに定まらない問題に解を見いだしていく思考力・表現力等の能力 ③これらの基になる主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」（文部科学省 高大接続システム改革会議最終報告2016）である。①の十分な知識・技能について、商業高校では商業科目関連の検定取得も行われている。これは進路決定に関わる条件のひとつになる場合が多い。

本校では2015年度よりアクティブ・ラーニング手法の教員研修を行っている。この手法を用いて検定指導を行った場合、検定合格率は高くなる傾向にある。本校の生徒は、全国商業高等学校協会主催の検定で、99.4%の生徒が1科目1級を取得することができた。また表彰規定のある同検定で3種目以上1級合格の生徒は59.4%であった（2015年度入学生）。検定取得することで自信をつけ、次の検定目標を、自ら目指して取り組んで行く生徒が多い。

行事を進行する時も「何を知っているか、何ができるか」、「知っていること・できることをどう使うか」、「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」を考えて行動するようになった。特に1年に1回行われる全校販売実習“津商モール”は有意義な学びの場である。この実習を通じて「主体的な学び」、「体話的な学び」、「深い学び」を獲得していくことが見えてくる。

キャリア教育においても生徒たちは、能動的な考えを持ち、進路を考えるようになった。進路希望について明確な意識を持たせるため、三者懇談を、毎年全員に実施し、家庭と学校の連携を図っている。また1年生で全ての生徒に3日間のインターンシップを実施している。就職を目指した2年生以降のインターンシップとは異なり、地域の企業に学校・生徒の状況を知ってもらう機会や、生徒の勤労観を根付かせる場になっている。

商業高校から進学する生徒は、AO入試や専門高校推薦等での入試形態が多く、成績の他にも地域連携・ボランティア、検定取得等、生徒たちが3年間行った取り組みが重要な要素となる。

この活動を通して、どのような取り組みを行っているのか、キャリア教育の面から考えてみる。



学生プレゼンテーション大会 発表内容一覧

①徳島文理大学 音楽学科声楽コース2年 川北菜未 音楽学科でのチャレンジ

私が音楽学科で専攻している声楽では、身体という楽器を通じて豊かな表現力を養うことを目標としている。コースで定められた科目でテクニカルな側面を学び、授業以外の活動にもさまざまな取り組みながら、自分自身に磨きをかけている。現在、年末のオペラ発表会へ向けて準備しているが、音楽学部の学生生活の実態を紹介したいと思う。

②徳島文理大学短期大学部 言語コミュニケーション学科2年 新居綺華、篠原藍 外国語を学んで

短大入学のきっかけは、英語の勉強をさらに深めたいという高校時代の習慣の延長線上にあった。普通の時間割以外に設定されている TOEIC の集中講座などを受講したのもそのためであり、また、英語以外の外国語として、中国語を学ぶため台湾の大学に短期留学し、日本語の授業アシスタントを務めたりもした。このようにして、いかに語学学習にうちこみ、語学学習を通じて何を得たかをこの場をかりて解説したい。

③中国学園大学 国際教養学部3年 武政輝之 真備町の僕が、平成30年7月豪雨で経験したこと

平成30年7月7日(土)深夜、連日の大雨により三つの河川が決壊し、一夜にして僕の住む真備町は大量の水で覆い尽くされました。2日間の避難生活、被災後の家族や真備町の生活環境、また、自分が入学時より携わっていた「まびファームかけはし」の現状と想いについて、体験談を含めて発表します。

④中国学園大学 国際教養学部3年 山下真弥 祖父母の住む飛島で、私たちができる活性化！

笠岡市笠岡港から約30kmにある祖父母が住む飛島で、笠岡市役所や島の住民の方と力を合わせて地域の活性化を計画しています。飛島の魅力、祖父母への想い、私たち若者が島のためにできることはなにか、について発表します。

⑤高松短期大学 秘書科2年 森千尋 笑顔のWAが地域を救う

私は、社会活動演習という講義でふれあいいきいきサロンなどへ実習に行き、高齢者の一人暮らしの現状と認知症高齢者の社会問題、介護問題について知りました。私たち、一人ひとりの力は微力でもなにかできることはないかと考え、企画プログラムを実施しました。高齢者が住みやすい地域とは、私がこの授業で感じたWAについてプレゼンします。

⑥高松短期大学 秘書科2年 香川桃子、川井梨子 マルシェ実習を通して学んだこと

私たちはビジネス実務総論やビジネス実務Iという講義を通して、香川県産品の種類や特徴、生産者の方々が商品にこめる思いについて学習してまいりました。特にさぬきマルシェ実習では、現地で出店されているお店でお手伝いをさせていただきました。店舗運営や接客のコツを直接教わった上で、自分たちの店舗を出店し、商品取引の難しさや対面販売の良さを実感できました。実習を通して学んだサービス精神や仕事に対するやりがいをこれからの生活で生かしていこうと思っています。

会員校紹介（広島女学院大学）



正門



インターンシップ事前学習



サンフレッチェスタジアムグルメ



ダイワハウス住宅コラボ

女性の一生涯（ライフキャリア）を豊かにする教育を実践

広島女学院大学は、創立以来キリスト教を基盤とした人格教育を行い、本年大学開学 70 周年を迎えました。今も昔も、本学の取り組む「女子教育」に変わりはありません。冷静な判断力と決断力を兼ね備え、社会の中で責任ある行動を毅然として取り、しかも寛容の精神をもって他者を受容し、日本および世界に貢献できる女性を今後も育て続けます。

2018 年度の改組により、2 学部 5 学科として新たなスタートを切りました。人文学部の 2 つの学科、国際英語学科と日本文化学科では、英語・日本語とその文化や思想を深く学び、柔軟な思考力・表現力を磨きます。人間生活学部の 3 つの学科、生活デザイン学科、管理栄養学科、児童教育学科では、女性ならではのしなやかな感性で、地域や生活を豊かにする力を身につけます。

人文学部で 1 年次から 2 年次にかけて行われるセミナー形式の授業により、職業リサーチ、企業でのインターンシップ、第一線で活躍する卒業生による講話など、学びや自分の興味に即した将来像を描くプログラムを実施。学科ごとの学び内容と、自分の将来とを繋げて考えます。仕事や人生の目標に触れることにより、自らの可能性と行動計画を明確にしていきます。

人間生活学部では、学科の専門性を活かした地域連携プロジェクトや産学協働プロジェクトに力を入れています。例えば、ダイワハウスとコラボし基本設計した住宅を実際に施工・販売、また、サンフレッチェ広島スタジアムグルメを考案したり、JR 広島駅北口周辺地区の活性化のためにスイーツ店のスタンプリリーやコラボスイーツ企画に取り組んだりしています。

一生涯を豊かに生きる土台をつくるライフキャリア教育

報酬を得る職業についている時だけがキャリアではありません。結婚、育児、介護など、生涯のあらゆる場面で、さまざまなイベントが訪れます。本学では、これらのライフイベントの全てをキャリアととらえる「ライフキャリア」という考え方を重視し、女性として輝き、より豊かな人生をつくる力を育む「ライフキャリア教育」に取り組んでいます。そして、卒業後もいろいろな節目に戻ってこられる場所となり、一人ひとりにとっての“一生涯の大学”でありたいと考えています。

総会概要（2018年度日本ビジネス実務学会中国・四国ブロック研究会）

日 時：2018年8月25日13：10～14：00

会 場：高松大学・高松短期大学

【1号議案】 第37回全国大会・理事会報告

【2号議案】 2017年度ブロック事業報告・決算

- 1) 第34回ブロック研究会の開催
開催日：2017年8月26日・27日
会場：松山東雲学園 大街道キャンパス
シンポジウム：「中国・四国ブロックの歩みと今後」
発表件数：4件
参加人数：11名
- 2) ブロック研究会総会の開催
開催日・会場は第34回ブロック研究会と同じ。
- 3) ブロック研究助成の募集
- 4) 学生プレゼンテーション大会の実施
参加者：6グループ（12名）
開催日・会場は第34回ブロック研究会と同じ。
- 5) 運営委員会の開催
第1回 運営委員会 2017年8月26日

【3号議案】 2018年度ブロック事業計画・予算

- 1) 第35回ブロック研究会の開催
開催日：2018年8月25日・26日
会場：高松大学・高松短期大学
- 2) ブロック研究会総会の開催
開催日・会場は第35回ブロック研究会と同じ。
- 3) ブロック会報（第31号、第32号）の発行
- 4) ブロック研究助成の募集
- 5) 学生プレゼンテーション大会の実施
開催日・会場は第35回ブロック研究会と同じ。
- 6) 運営委員会の開催
第1回 運営委員会 2018年8月

【4号議案】 次回開催校について

会 場：広島女学院大学

広島県広島市東区牛田東4-13-1

開 催 日：2019年8月24日（土）・25日（日）

【5号議案】 その他

- 1) ブロック会報を電子化で発行することが了承された。なお、PDFにしてメール添付で送る案が出た。
- 2) 共同研究は、今回の災害に関する事で、災害地の先生方に考えていただく案が出た。
- 3) 学生プレゼンテーション参加学生への交通費の補助について、考えていくこととした。
- 4) 研究推進（共同研究）の申込モデルの例がほしいとの案が出た。
- 5) ブロック研究会の開催時期を考えたいとの案が出た。
- 6) 全国大会の残金と今回の研究会費の一部を、西日本豪雨（倉敷市真備町）の被災者への寄付とすることが了承された。